

IIT 採用事例

PART 2

IIT（インド工科大学）とは？

インド工科大学（Indian Institutes of Technology、通称IIT）は、世界最高峰の理系学生（科学者やエンジニア）を育成するために設立された大学です。入学試験は「世界で最も難しいテスト」と言われています。

モラブは2024年11月より『インドプロジェクト』を開始。高度な技術を持つIITインド工科大学人材を企業様に派遣しています。

今回は、モラブのインド人をご採用いただいたお客様の声をご紹介します！

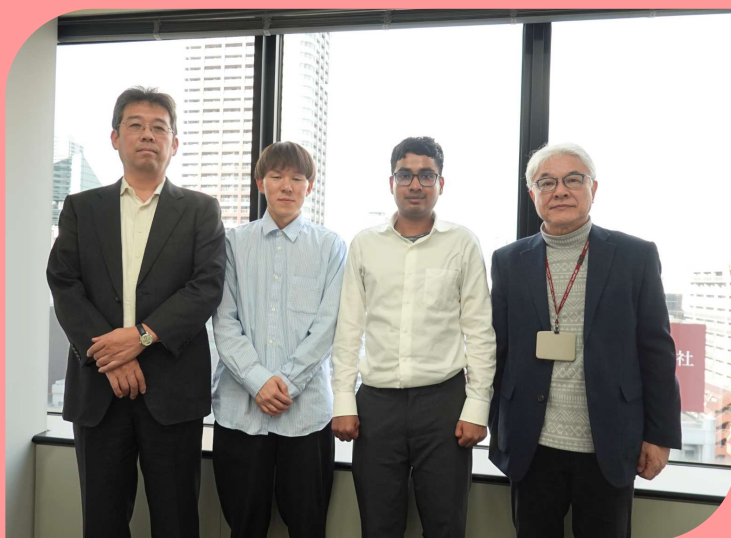
COMPANY

応用技術株式会社 様

設立 1984年6月
所在地 大阪府大阪市
上場市場 東証スタンダード

事業内容

- ・ 製造業向けモノづくりソリューションの提供
- ・ 各種自動設計システムの開発
- ・ 建設、土木分野向け構造解析・積算システムの開発
- ・ 防災、環境シミュレーション
- ・ まちづくり計画、アセット維持管理支援サービス
- ・ 土木分野向けシステム開発および技術支援



ENGINEER

2025年1月 出向開始

ジャダヴ アクシェイ ヴィジャイ

卒業校

IITルールキー校

専攻

コンピュータサイエンス &
エンジニアリング



モラブ阪神工業株式会社

■ IIT人材を採用したきっかけは？

H様：以前モラブさんからベトナムの方を2名採用していたので、外国の方でも実力があれば活躍してもらえと思っています。それで今回はインドの方を紹介してもらったので、アクシェイさんを契約させていただきました。

■ アクシェイさんを採用する前にどんな課題を抱えていましたか？

H様：アクシェイさんには今、船舶のシステム作成に関わっていただいています。若手のメンバーが足りないでなかなかチームを組みにくいというのがありました。3人以上のチームが理想ですが、現状はみんなそれぞれ別のシステム業務に携わっているのが難しい状況でした。

■ アクシェイさんの仕事ぶりはいかがですか？

H様：最初の半年は基礎的な部分を覚えてもらう期間に充てていましたが、アクシェイさんは理解と習熟が早いので、手持ち無沙汰だったようです(笑)。

S様：アクシェイさんは判断が早いですし、自分はこうしたいという意思があるので、「じゃあこうしてください」とか「これは辞めといた方がいいですよ」とか、そういうコミュニケーションが結構発生しますね。言葉の問題でニュアンスが伝わりにくい時はありますが、アクシェイさんの方からしっかり確認してくれますし、こちらで彼の意図を確認しながらすり合わせをしています。



■ アクシェイさんがチームに入ったことでいい影響はありましたか？

S様：他の外国人メンバーは割と日本語ができるので、実装の内容は大体口頭にドキュメントを少し入れれば伝わるのですが、アクシェイさんはまだ日本語が不慣れなので、ちゃんと言語化して伝えようとチームで決めました。はっきり言葉にすることによってコミュニケーションの量も増えましたし、言語化能力も上がったのは良かったですね。休み時間には、モラブさんの派遣の方が隣の席なので、よく談笑されていて笑い声が聞こえてきます！

■ 今後アクシェイさんに期待することは？

J様：アクシェイさんの性格と飲み込みのスピード、それから他の若い子から吸収する部分に期待しています。今はコーディングだけやってもらっていますが、徐々に設計やドキュメントをきっちり書いたりできればいいなと思います。日本の仕事のやり方に慣れていただいて、ちゃんと吸収しながら諦めずにやってほしいなと思います。

Inter view



モラブ阪神工業株式会社